

今月号では、インプラントの常識に属する話だが、意外と誤解の多いトピックにスポットを当てたい。インプラントにも寿命がある、という点だ。

インプラントは、手術後、定期検診や毎日のブラッシングをしっかりとやれば、10年、20年、ヒトによっては30年もつ。

一般には、術後、5年以内に、定期検診やメンテナンスを励行していて、不具合が起きると、無料で（一部費用負担の場合もあり）再手術ができる保証付きの治療が普及しているが、自然歯ではないので、10年が経過すると、インプラントを入れた部分の歯肉の腫れ、インプラント周囲炎などで、来院される方もいる。比較的多いのは、金属土台はしっかりと書いても、その上に被せてい



る人口歯が割れてしまう（強い噛みしめなど）ケース。

この場合は、人口歯を取り換えれば、従来通り、しっかりと噛める。

ただ土台金属を埋入したアゴの骨が歯周病などで溶け、補てん剤などでカバーできないと、インプラントを維持するのは難しい。

当クリニックでは、出来るだけ長くインプラントを自然歯と同じように使っていたらけるよう、インプラントにした後は、口腔ケアをこれま

顎関節症
ドライマウス
舌痛症

長栄歯科クリニック
亀井 英志
Kamei Hideshi

ストレスは
見える！

すべては「噛みしめ」が原因だった

気がつくとも歯を食いしばっている。…心当たりの方は、当コラムの亀井医師の著書『すべては『噛みしめ』が原因だった』をお読みいただきたい。未病、の原因をまとめた良書です。

インプラントのメリットの最大化

インプラントの「メリット」④

う、助言を怠らない。「インプラントにしたから、これで、ひと安心」という認識が、歯科医としては一番困る。

実はインプラントにしたら治療が終わりなのではなく、ここからが再スタートなのだ。これまで以上に口腔ケアが大切になる。

術後の「噛む力」の維持・強化、その主役は、患者さんの歯の健康への意識の高さで随分変わるのだ。

インプラントにされた方の中で、起きやすい不具合は、ブラッシング不良による歯周炎だ。

自然歯の場合は、歯と歯肉の間に歯根膜と呼ばれる膜があり、歯が植わっている歯槽骨などを保護しているのだが、インプラントにすると、骨と直接結合するため生理的な保護機能がなくなり、この保護機能は自然歯に比べ、格段に弱まる。だから

こそ、自然歯より一層丁寧な毎日のブラッシングで、口腔内を、できるだけ清潔に保つ必要がある。

インプラント歯周病は一度

重症化すると、金属土台が埋まっているアゴの骨がみるみる溶けて、骨の回復はかなり難しくなる。回復できるとしても、手術が必要となり、患者さんの負担も相当なものになる。

ただ、せっかく施したインプラントをしっかりとしたメンテナンスで、その寿命を延ばすことは、それほど難しいことではない。

高度歯科医療としてのインプラントではあるが、現実には「道具」でありメンテナンスは欠かせない。

術後20年、30年と良好に経過している患者さんは、定期検診にも必ずおみえになり、プロのチェックを受けている。定期検診を受けている患者さんは、自然歯の部分でも歯周病も少なく、噛める力を維持されているため、唾液の分泌も多く、口腔内のトラブルも発生し難いという特長で共通している。

亀井英志(かめい・ひでし)
1951年群馬県前橋市生まれ。76年東京歯科大学卒。都立病院歯科口腔外科医を経て、84年より長栄歯科クリニック院長。臨床ゲノム医療学会理事。

